

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：対象戸数	指標の求め方：—
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：対象地区水道普及率	指標の求め方：水道接続戸数÷対象戸数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 合計
指標	活動指標 1 (単位/戸)	計画値 実績値	17 17	17 17	17 17		17 17	17 17	17 17		17 17	17 17	17 17	17 17		
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	100 100	100 100	100 100		100 100	100 100	100 100		100 100	100 100	100 100	100 100		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					良好である										
	評価内容	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 全戸接続したことにより、安心・安全で安定した水道水の供給ができています。	自己分析： 全戸接続したことにより、安心・安全で安定した水道水の供給ができています。	自己分析： 全戸接続したことにより、安心・安全で安定した水道水の供給ができています。	判断理由： 全戸接続したことにより、制度が行き渡っており事業としては良好であると判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
	今後の方向性					現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 全戸接続したことにより、安心、安全で安定した水道水の供給ができていますため、継続する事業と考える。				R8：				R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：助成件数	指標の求め方：1年あたりの助成件数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：1件当たりの助成額	指標の求め方：事業費÷助成件数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計 合計
指標	活動指標 1 (単位/件)	計画値 実績値	204 204	204 204	204 204		204	204	204		204	204	204	204		
	成果指標 1 (単位/円)	計画値 実績値	1,176 1,152	1,176 1,118	1,176 1,086		1,176	1,176	1,176		1,176	1,176	1,176	1,176		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					良好である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 同一市内における較差解消が図られている。	自己分析： 同一市内における較差解消が図られている。	自己分析： 同一市内における較差解消が図られている。	判断理由： 全戸接続したことにより、制度が行き渡っており事業としては良好と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 指標は達成されており、同一市内における格差解消が図られている。全戸接続により、安心、安全、安定した水道水の供給ができています。継続すべき事業と考える。					R8：					R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)			指標名: 水質検査箇所数				指標の求め方: 水質検査実施事業所数										
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)			指標名: 基準値内事業所数				指標の求め方: 当該年度に調査した事業所のうち、基準値内の水質で排水している事業所数										
			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期		
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計画 合計	
指標	活動指標 1 (単位/箇所)	計画値	20	20	20		20	20	20		20	20	20	20			
		実績値	18	19	15												
指標	成果指標 1 (単位/件)	計画値	15	15	15		16	16	16		17	17	17	17			
		実績値	14	14	14												
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている											
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない											
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない											
	総合評価					良好である											
	総合評価の判断理由 または指標の実績値に関する自己分析		自己分析: 事業者が排水水質について下水道条例に示す基準を管理することで、公共用水域の保全が保たれるので、今後とも継続的な水質検査事業が必要。	自己分析: 事業者が排水水質について下水道条例に示す基準を管理することで、公共用水域の保全が保たれるので、今後とも継続的な水質検査事業が必要。	自己分析: 事業者が排水水質について下水道条例に示す基準を管理することで、公共用水域の保全が保たれるので、今後とも継続的な水質検査事業が必要。	判断理由: 計画的に検査を実施しており基準値超過の事業所に通知することにより、事業者も排水水質を把握してきており、排水水質の改善に繋がっていることから、評価については良好と判断した。	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:		
今後の方向性					現状のまま継続												
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5: 特定施設を中心に計画的に検査を実施することにより良好な環境衛生の維持につながる必要な事業である為、今後も継続していく。				R8:				R10:							

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)			指標名：改築更新設備数				指標の求め方：更新・更正等を行う設備数									
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)			指標名：改築更新対象施設整備率				指標の求め方：改築実施箇所数／改築計画箇所数×100									
			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計画 合計
指標	活動指標 1 (単位/箇所)	計画値 実績値	1.0 1.0	1.0 0.0	1.0 1.0		1.0	1.0	1.0		1.0	1.0	1.0	1.0		
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	9.1 9.1	18.2 9.1	27.3 18.2		36.4	45.5	54.5		72.7	81.8	90.9	100.0		
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					少し上がっている										
	総合評価					良好である										
	総合評価の判断理由 または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 長寿命化計画完了に伴い、旧計画である「公共下水道施設改築更新事業」、「公共下水道管路調査事業」を統合し、下水道施設資産を計画的・効率的に管理するためのストックマネジメント計画を策定した。	自己分析： 令和3年度に策定されたストックマネジメント計画に基づき、マンホールポンプ改築工事設計を行い、次年度以降の改築工事の準備を進めた。また、公共下水道管渠点検により、管渠の劣化状況を調査し補修または改築方針の判断資料として成果が得られた。	自己分析： 計画に基づき北光1号マンホールポンプ所の改築工事を行った。また、公共下水道管渠点検を継続的に行い管渠の補修・改築方針の判断資料としていく。	判断理由： 令和3年にストックマネジメント計画を策定し、概ね計画とおりに事業を振興できているため、評価は良好と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5：今後増大するであろう老朽化した下水道施設に対して、点検・調査・修繕・改築のPDCAサイクルを適切に実施するためには、本計画に基づき優先順位を把握しながら事業を行うことが求められる。交付金を活用し財源確保に努めるためにも継続して事業を進めていきたい。					R8：					R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)			指標名：整備面積				指標の求め方：污水管渠整備に伴う下水道供用開始区域面積									
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)			指標名：公共下水道汚水整備率				指標の求め方：整備面積／認可面積×100									
			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計画 合計
指標	活動指標 1 (単位/ha)	計画値	0.00	0.00	0.00		0.84	0.84	0.00		0.00	0.00	0.00	0.45		
		実績値	0.00	0.00	0.00											
指標	成果指標 1 (単位/%)	計画値	78.7	78.7	78.8		78.8	78.9	78.9		78.9	78.9	78.9	79.0		
		実績値	78.7	79.3	79.3											
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					良好である										
	総合評価の判断理由 または指標の実績値に関する自己分析		自己分析： 今年度は事業を実施しなかったが、事業計画変更策定を行っており、今後とも地先要望や土地利用状況を勘案しながら事業を継続していく。	自己分析： 今年度は事業がないが、今後とも地先要望や土地利用状況を勘案しながら事業を継続していく。また、成果指標が増加した理由は、事業計画の見直しを行ったことで認可面積が縮小されたためである。	自己分析： 今年度も新たな土地利用がなく、今後とも地先要望や土地利用状況を勘案しながら事業を継続していく。	判断理由： 污水管渠の整備については、普及率、水洗化率も目標値に達しており、整備率が伸びていない理由は区域内の未開発によるものである。整備は状況に応じて実施するものであるため、評価については良好と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 計画的かつ必要に応じて事業は進んでおり、事業費についても交付金および過疎債を活用することで財源確保に努めている。普及率向上による生活環境の改善に繋がっており、今後も計画的に事業を進めることとするが、公共下水道計画区域については、市内の開発状況を見極め、適切な区域に見直す必要があると考えられる。				R8：				R10：						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：流域下水道建設事業費	指標の求め方：—
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：水洗化率	指標の求め方：水洗化人口÷下水道処理人口

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/千円)	計画値 480,840	480,840	480,840		480,840	480,840	480,840		480,840	480,840	480,840	480,840	
		実績値 82,015	276,594	1,012,320										
指標	成果指標 1 (単位/%)	計画値 98.5	98.5	98.6		98.6	98.7	98.7		98.8	98.8	98.9	98.9	
		実績値 98.7	98.7	98.8										
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている									
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない									
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない									
	総合評価				良好である									
	総合評価の判断理由 または指標の実績値に関する 自己分析	自己分析： 汚水を広域的に一括処理することで経費削減等が図られ安定的な下水道事業の運営に繋がっている。	自己分析： 汚水を広域的に一括処理することで経費削減等が図られ安定的な下水道事業の運営に繋がっている。	自己分析： 汚水を広域的に一括処理することで経費削減等が図られ安定的な下水道事業の運営に繋がっている。	判断理由： 施設の老朽化により工事数の増が見込まれるが、資材価格の高騰等で計画的・継続的な工事を行うことが困難となり、年度ごとの事業費にばらつきが目立つようになったが、今後基本的には費用は増えていくものと考えられる。しかし汚水を広域的に一括処理することで各市町の負担は軽減されていることから、評価については良好と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：
今後の方向性				現状のまま継続										
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 施設の老朽化により工事数は増えるはずだが、資材不足等が原因で計画的・継続的な工事を行うことが困難となり、年度ごとの事業費にばらつきが目立つようになったが、今後基本的には費用は増えていくものと考えられる。しかし汚水を広域的に一括処理することで各市町の負担は軽減されており、今後も流域下水道と連携し汚水処理事業の効率的運営に努める。				R8：				R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：水洗化人口普及増加分	指標の求め方：—
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：水洗化率	指標の求め方：水洗化人口÷下水道処理人口

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 合計
指標	活動指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	8 0	8 0	8 0		8 8	8 8	8 8		8 8	8 8	8 8	8 8		
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	98.5 98.7	98.5 98.7	98.6 98.8		98.6 98.6	98.7 98.7	98.7 98.7		98.8 98.8	98.8 98.8	98.9 98.9	98.9 98.9		
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					良好である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 1基分の予算に対し貸付実績なし。衛生環境向上のためにも引き続き未普及世帯へ水洗化工事に対する融資のPRを行っていく。	自己分析： 1基分の予算に対し貸付実績なし。衛生環境向上のためにも引き続き未普及世帯へ水洗化工事に対する融資のPRを行っていく。	自己分析： 1基分の予算に対し貸付実績なし。衛生環境向上のためにも引き続き未普及世帯へ水洗化工事に対する融資のPRを行っていく。	判断理由： 成果指標について令和元年以降伸びが止まっているが、それは成果指標の水準が非常に高くなったことが一因であることから水洗化率の向上について評価は良好と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 水洗化工事費の一部を融資する本制度については今後も必要と考える。水洗化が進んだことにより制度の利用件数は現状少なくなっているが引き続き業者等と連携したPRの促進に努め、水洗化率の向上に繋げる。					R8：					R10：					

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

事業名	個別排水処理施設促進事業				事業期間	平成8年度 ～ 年度								
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第7期総合計画の位置付け	5-4-3	他に関連する基本事業	—	—	—	—	—	所管課係	土木課管理係
目的 (何のために実施するのか)	公共下水道事業計画処理区域外の生活環境の改善及び公共用水域の水質保全に資するため、水洗便所改造資金の貸付を行い、個別排水処理施設による水洗化を促進し地域住民の環境衛生の向上を図る。						手段 (どのような方法で実現するのか)	ホームページでのPR、戸別訪問による処理施設の設置及び水洗化の普及活動。施設を設置し水洗トイレに改造する場合は、改造資金として50万円を限度に無利子貸付を行う。						
対象 (誰・何を対象としているのか)	公共下水道事業計画処理区域外の世帯。						成果 (どのような効果が得られるのか)	改造資金の無利子貸付を行うことにより経済的負担が緩和され水洗化の促進が図られることにより、公共用水域の水質保全及び生活衛生環境が向上する。						
事業開始時の状況・これまでの経緯	公共下水道計画区域外における河川等公共用水域の水質保全と生活環境の改善に合併処理浄化槽は欠くことのできない施設であり、平成8年度の個別排水処理施設整備事業の開始と同時に貸付制度を創設し普及促進を図ってきた。貸付条件については無利子、50回以内償還で限度額は50万円。													

【DO】

実績

(単位：円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画 計	
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計		
投 入 さ れ た 事 業 費 の 推 移	国 費	計 画 額				0				0					0	0
		予 算 計 上 額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
	道 費	計 画 額				0				0					0	0
		予 算 計 上 額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
	地 方 債	計 画 額				0				0					0	0
		予 算 計 上 額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
	そ の 他	計 画 額	500,000	500,000	500,000	1,500,000	500,000	500,000	500,000	1,500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	2,000,000	5,000,000
		予 算 計 上 額	500,000	500,000	500,000	1,500,000	500,000			500,000					0	2,000,000
		実 績 額	0	0	0	0				0					0	0
一 般 財 源	計 画 額	1,000	1,000	1,000	3,000	1,000	1,000	1,000	3,000	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000	10,000	
	予 算 計 上 額	1,000	1,000	1,000	3,000	1,000			1,000					0	4,000	
	実 績 額	330	0	0	330				0					0	330	
事 業 費 合 計	計 画 額	501,000	501,000	501,000	1,503,000	501,000	501,000	501,000	1,503,000	501,000	501,000	501,000	501,000	2,004,000	5,010,000	
	予 算 計 上 額	501,000	501,000	501,000	1,503,000	501,000	0	0	501,000	0	0	0	0	0	2,004,000	
	実 績 額	330	0	0	330	0	0	0	0	0	0	0	0	0	330	
事 業 費 予 算 の 内 容		500千円/1基及び振込手数料1千円	500千円/1基及び振込手数料1千円	500千円/1基及び振込手数料1千円		500千円/1基及び振込手数料1千円										
	前年度予算との比較 (増減理由)	前年度同額	前年度同額	前年度同額		前年度同額										
	実績との比較 (増減理由)	1基分の予算に対し貸付実績なし	1基分の予算に対し貸付実績なし	1基分の予算に対し貸付実績なし												

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：合併処理浄化槽年間設置基数	指標の求め方：年間に設置した基数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：合併処理浄化槽整備率	指標の求め方：合併処理浄化槽使用人口÷下水道計画区域外人口

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 計画
指標	活動指標 1 (単位/基)	計画値 実績値	10 1	10 0	10 1		10 10	10 10	10 10		10 10	10 10	10 10	10 10		
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	54.3 50.2	54.7 50.2	55.1 50.6		55.5 55.9	55.9 56.3	56.3 56.3		56.7 56.7	57.1 57.1	57.5 57.5	57.9 57.9		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					あまり達成されていない										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					少し上がっている										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					普通である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 1基設置したが、貸付実績なし。衛生環境向上のためにも引き続き未設置世帯へのPRの必要あり。	自己分析： 対象区域がほぼ農村地域であり、高齢化や家屋の老朽化の進行等により、年間設置基数は鈍化している。しかし衛生環境向上のためにも引き続き未設置世帯へのPRの必要あり。	自己分析： 今年度は1基設置したものの、貸付の実績はなし。対象区域がほぼ農村地域であり、高齢化や家屋の老朽化の進行等により、年間設置基数は鈍化している。	判断理由： 対象区域がほぼ農村地域であり、高齢化や家屋の老朽化の進行等により、年間設置基数は鈍化している。成果指標の伸びは人口減による影響もあるが、対象地区の人口減を考慮すれば、事業についての評価は普通であると判断される。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 計画値に対し実績値が少ないため総合評価は良好とは言えないが、市の水質保全と生活環境の改善のためにこの活動は必要と判断しているため、今後も業者と連携し貸付制度も含めた普及PR活動に努め、合併処理浄化槽の利用促進に繋げる。 また、個別排水処理施設整備事業の計画区域については、公共下水道計画区域と整合を図りながら、市内の開発状況を見極め、適切な区域に見直す必要があると考えられる。					R8：					R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：合併処理浄化槽年間設置基数	指標の求め方：年間に設置した基数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：合併処理浄化槽整備率	指標の求め方：合併処理浄化槽使用人口/下水道計画区域外人口

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 計画
指標	活動指標 1 (単位/基)	計画値 実績値	10 1	10 0	10 1		10 55.5	10 55.9	10 56.3		10 56.7	10 57.1	10 57.5	10 57.9		
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	54.3 50.2	54.7 50.2	55.1 50.6											
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					少し上がっている										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					普通である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 対象区域がほぼ農村地域であり、高齢化や家屋の老朽化の進行等により、年間設置基数は鈍化している。	自己分析： 対象区域がほぼ農村地域であり、高齢化や家屋の老朽化の進行等により、年間設置基数は鈍化している。しかし衛生環境向上のためにも引き続き未設置世帯へのPRの必要あり。	自己分析： 今年度は1基設置。対象区域がほぼ農村地域であり、高齢化や家屋の老朽化の進行等により、年間設置基数は鈍化している。しかし衛生環境向上のためにも引き続き未設置世帯へのPRの必要あり。	判断理由： 対象区域がほぼ農村地域であり、高齢化や家屋の老朽化の進行等により、年間設置基数は鈍化している。成果指標の伸びは人口減による影響もあるが、設置数の実績もあることから評価については普通であると判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 対象区域がほぼ農村地域であり、高齢化や家屋の老朽化の進行等により、年間設置基数は鈍化している。そのため計画値に対し実績値が少なく、総合評価は良好とは言えないが、市の水質保全と生活環境の改善のためにこの活動は必要と判断している。今後業者と連携し、貸付制度も含めた普及PR活動に努め、合併処理浄化槽の利用促進に繋げる。					R8：					R10：					